



# どうにかする力

泗水小学校だより  
R5. 2. 7(火)  
No. 44  
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに  
【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～



泗水小学校  
ホームページ

## 泗水地区6年生三校合同学習会が行われました

1月31日(火)に、本校で、泗水地区三校の6年生が集まったの合同学習会が行われました。新型コロナ対策のため、昨年度はオンラインでの開催でしたが、今年度は、感染対策を行ったうえで集合しての開催となりました。

この学習会の目的は、「部落問題をはじめあらゆる人権問題に対する取組を自分の問題として受け止める児童を育てるとともに、三小学校がなかまとしてつながり合える機会とする」ことです。この学習会は、旧泗水町時代の平成12年から行われています。中学校進学を前に心配や不安、またその解決策を話し合い、安心して希望をもって進学してほしいとの願いで開催されています。

当日はまず、体育館で、菊池市地域人権教育指導員の宮崎篤先生から、人権を大切にすなかまづくりの大切さを講話していただきました。次に、各学校の紹介をした後、24班に分かれて、中学校進学を前にした心配や不安、その解決策を話し合いました。最後に、泗水中生徒会長と泗水中人権教育主任の吉開先生から感想を含めてお話をしていただきました。今回の合同学習会は、6年生にとって、中学校進学に希望と安心を与えるものになったのではないかと思います。あたたかい雰囲気での学習会でした。



宮崎先生の講話の様子



班別協議の様子

## ホワイトボードとパーテーションを寄贈いただきました！

1月30日(月)に、菊池市企業連絡協議会から、ホワイトボードとパーテーションを寄贈していただきました。当日は、株式会社熊本蛋白ミール公社の坂本和穂様、菊池市商工振興課の西川希美様が来校されて校長室で贈呈式を行いました。将来の菊池市を担う子どもたちの学習に役に立てればとお話いただきました。本当にありがとうございました。大切に使用させていただきます。



## ☆校長室から独り言41☆

「日本の学校教育って本当に素晴らしいんですよ！」～あるお母さんの言葉から～

十数年前、私が5年生の担任をしていた時のことです。9月にアメリカの小学校(日本人学校ではない現地校)から女の子が転校してきました。もともと熊本の子ですが、お父さんの仕事の関係で、小学校入学から5年生までずっとアメリカの小学校で過ごしてきました。日本の小学校に通うのは初めてでした。明るくて英語は完璧、アメリカでは毎週土曜日に日本語補習校に通ってはいましたが、日本語のほうに少し心配される子でした。

彼女が転校してきて一番困ったことが給食でした。魚や野菜など栄養のバランスの取れた給食を食べた経験がなく、給食の時間は本当に辛そうでした。また、アメリカの小学校にはプールがなく、水泳の授業はまったくなかったようで、6年生になって初めてでした。水着に着替えるのも初めてで、恐る恐るプールに入るところから始めました。しかし、彼女の頑張りとお家族の励ましで、次第に給食を克服し、水泳でも25メートルを泳ぎました。外国語の授業はもちろん大活躍で、彼女がいてくれるおかげでとても充実しました。

家庭訪問をしてお母さんにお話を聞くと、アメリカの小学校のことを詳しく話してくださいました。「昼食は、マクドナルドやケンタッキーフライドチキンの好きな物を注文して、食堂で食べます。娘は毎日、ハンバーガーとポテト、コーラを注文していました。食べきれなかったらゴミ箱にそのまま捨てていたようです。」「授業は、例えば体育の授業はほとんどが自由遊び。お金を出してスポーツクラブに通う子以外は、ほとんど運動らしいことはできません。学校にプールはなく、スイミングクラブに通う子以外はまったく泳げません。」「教室での授業中、ガムやお菓子を食べる子もいました。」「掃除の時間はありません。掃除は清掃員の方がされていました。雑巾で床を拭くなんて、初めての経験です。」「アメリカに行って、生きる力をバランスよく育ててくれる日本の学校教育のすばらしさがよくわかりました。アメリカで学んだこともたくさんありますが、日本に帰ってきて、ほかの保護者の方に、『日本の学校教育って本当に素晴らしいんですよ!』と話しています。」

日本の学校教育にももちろん課題はありますが、すばらしさを指摘していただいて自信が持てた言葉でした。